

「豊岡市立小中学校における適正規模・適正配置のあり方について」答申（案）概要版

1 はじめに

●近年の急激な少子化により、同級生がわずか数名であったり、複式学級を有する学校が増えてきており、教育課題が生じてきています。

●市教育委員会が2019年に開催した教育懇談会では、保護者から不安の声や、学校統合を望む意見が多くあげられました。

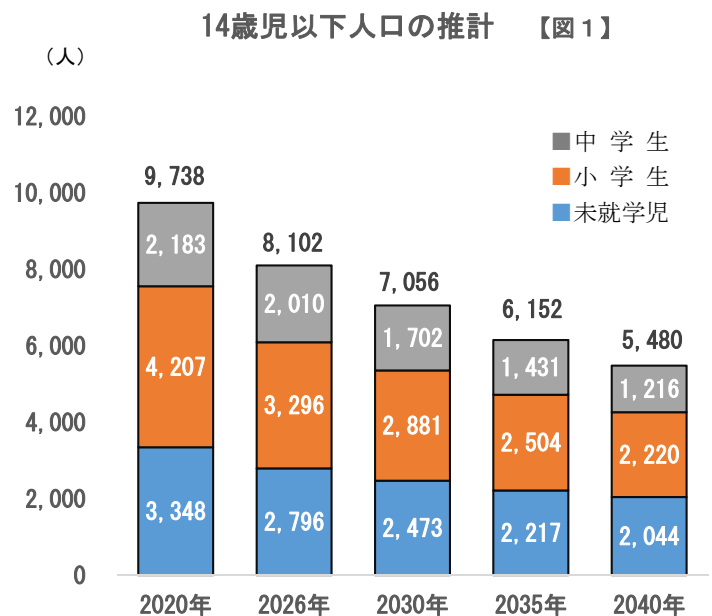
●2020年2月3日に豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会（以下「審議会」という。）が設置され、7回に渡り審議を重ねてきました。

●2020年9月23日から10月29日にかけて、審議会がまとめた中間案をもとに、保護者や地域住民を対象とした「小中学校のあり方意見交換会」が開催されました。（主催：市教育委員会、計12回開催）

●審議会では、「子どもたちにとってより良い教育環境とするには、学校はどうあるべきか」を第一に考え、また、「小中学校のあり方意見交換会」で寄せられた意見についても十分考慮し、2021年2月10日に市教育委員会に答申しました。

2 14歳児以下人口の推計

今後も少子化が進み、2020年から2040年までの20年間で、小学生は52.8%、中学生は55.7%にまで減少するものと見込まれます。（図1）



資料：豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画
データより（各年4月1日時点、2020年は実績値）

3 学校別児童生徒数の今後の見込み

1 小学校 ※太文字・網掛けの学校は基準上で複式学級が生じている（生じる見込みの）学校 【表1】

中学校区別	小学校名	2020年 (実績)	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2030年	2035年	2040年
豊岡南中	豊岡小	384	384	357	352	331	321	302	268	260	223
	内、豊岡南中学校区	210	205	196	191	176	160	141	145	138	121
	八条小	338	335	323	321	326	311	324	260	228	233
	三江小	148	142	136	124	120	118	121	93	79	65
	新田小	188	188	196	192	196	189	188	198	173	147
	中筋小	93	83	80	79	70	67	66	41	29	27
	神美小	125	125	116	110	102	89	88	66	60	53
	中学校区計	1,102	1,078	1,047	1,017	990	934	928	803	707	646
豊岡北中	豊岡小	384	384	357	352	331	321	302	268	260	223
	内、豊岡北中学校区	174	179	161	161	155	161	161	123	122	102
	田鶴野小	159	157	153	149	150	152	162	116	107	105
	五荘小	723	736	741	708	719	695	658	594	555	507
	奈佐小	35	28	25	16	15	17	12	9	5	4
	中学校区計	1,091	1,100	1,080	1,034	1,039	1,025	993	842	789	718
港中	港東小	50	45	42	43	42	37	36	30	22	21
	港西小	42	41	43	45	47	43	41	28	23	17
	中学校区計	92	86	85	88	89	80	77	58	45	38
豊岡計		2,285	2,264	2,212	2,139	2,118	2,039	1,998	1,703	1,541	1,402
城崎中	城崎小	153	160	144	144	134	118	112	88	91	80
	城崎計	153	160	144	144	134	118	112	88	91	80
竹野中	竹野小	107	105	101	108	103	94	87	71	59	41
	中竹野小	23	24	19	21	18	20	20	16	11	8
	竹野南小	24	24	22	22	16	17	20	22	13	7
	竹野計	154	153	142	151	137	131	127	109	83	56
日高東中	府中小	181	178	179	180	163	148	144	117	106	93
	八代小	37	31	27	22	20	11	12	10	5	4
	日高小	458	407	388	376	355	338	316	282	235	211
	静修小	43	42	37	35	39	35	38	29	20	16
	中学校区計	719	658	631	613	577	532	510	438	366	324
日高西中	三方小	123	116	108	98	87	81	76	70	49	44
	清滝小	82	81	74	79	70	61	63	54	37	27
	中学校区計	205	197	182	177	157	142	139	124	86	71
日高計		924	855	813	790	734	674	649	562	452	395
出石中	弘道小	227	213	212	192	181	161	148	124	108	93
	福住小	108	90	85	80	74	72	68	86	78	82
	寺坂小	25	28	31	30	29	30	27	21	11	8
	小坂小	90	91	88	83	75	64	61	63	47	45
	小野小	58	58	55	53	53	48	45	33	24	17
出石計		508	480	471	438	412	375	349	327	268	245
但東中	合橋小	64	64	66	65	58	55	47	38	27	22
	高橋小	28	22	23	20	19	21	17	16	12	6
	資母小	64	60	62	53	56	53	49	37	26	15
但東計		156	146	151	138	133	129	113	91	65	43
合 計		4,180	4,058	3,933	3,800	3,668	3,466	3,348	2,880	2,500	2,221

2 中学校 【表2】

中学校名	2020年 (実績)	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2030年	2035年	2040年
豊岡南中	555	554	543	532	533	533	493	446	386	335
豊岡北中	521	484	514	544	544	510	481	480	397	345
港中	62	49	51	42	42	43	47	46	26	22
城崎中	66	64	74	72	83	79	77	60	44	43
竹野中	71	81	78	69	70	63	70	56	48	36
日高東中	343	370	350	348	336	337	332	258	198	168
日高西中	102	99	95	98	101	101	94	64	52	37
出石中	238	251	235	235	236	245	237	169	143	116
但東中	83	85	71	73	67	76	78	54	42	32
合 計	2,041	2,043	2,022	2,024	2,011	1,987	1,909	1,633	1,336	1,134

資料：住民基本台帳・各校在籍者からの見込み、幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画 データより
※市立小・中の児童・生徒数推計のため、図1の数値とは一致しません

4 学校規模の現状と今後の見込み

学校規模は、国の法令上、小中学校とも12～18学級が標準とされています。

豊岡市では、標準規模を下回る「小規模校」が多い状況であり、今後は、複式学級が生じるほどの「極小規模校」が更に増えていく見込みとなっています。（表1～表4 参照）

1 小学校（29校） 【表3】

学校規模	2020年度	2035年度（推計）
大規模校 （19学級以上）	五荘小（1校）	なし
標準規模校 （12～18学級）	豊岡小、八条小、日高小 （3校）	豊岡小、八条小、 五荘小 、 日高小（4校）
小規模校 （11学級以下）	三江小、田鶴野小、新田小、 中筋小、神美小、城崎小、 竹野小、府中小、三方小、 清滝小、弘道小、福住小、 小坂小、小野小、合橋小、 資母小（16校）	三江小、田鶴野小、新田小、 神美小、城崎小、竹野小、 府中小、弘道小、福住小 （9校）
極小規模校 （50人程度以下）	奈佐小、港東小、港西小、 中竹野小、竹野南小、八代小、 静修小、寺坂小、高橋小 （9校）	奈佐小、 中筋小 、港東小、 港西小、中竹野小、竹野南小、 八代小、静修小、 三方小 、 清滝小 、寺坂小、 小坂小 、 小野小 、 合橋小 、高橋小、 資母小 （16校）

※2020年度時点の小学校で表しています。
※2020年度と2035年度で規模が変わる学校については、**太文字・網掛け**で表しています。

2 中学校（9校） 【表4】

学校規模	2020年度	2035年度（推計）
大規模校 （19学級以上）	なし	なし
標準規模校 （12～18学級）	豊岡北中、豊岡南中（2校）	豊岡北中、豊岡南中（2校）
小規模校 （11学級以下）	港中、城崎中、竹野中、 日高東中、日高西中、出石中、 但東中（7校）	港中、城崎中、竹野中、 日高東中、日高西中、出石中、 但東中（7校）



コミュニケーション能力 育成の取組

5 学校規模による課題

小規模校の一般的なメリット・デメリットの一例 【表5】

メリット	デメリット
・児童・生徒の一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ・学校行事や部活動等において、児童・生徒一人一人の個別の活動機会を設定しやすい。 ・児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ・異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ・保護者や地域社会との連携が図りやすい。	・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ・運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ・部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。 ・クラス替えが困難なこと等から、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ・PTA 活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

6 学校の適正規模・適正配置の検討

1 めざす教育

- (1) 国の学習指導要領「主体的・対話的で深い学び」の実現
- (2) 市のめざす教育〔コミュニケーション能力や非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）の育成〕の取組

2 課題

- (1) 小小連携の取組※は、事前調整や移動時間等の制約から、これ以上の拡充は難しい
※小規模校の教育課題軽減のため、年に数回、複数の学校が合同で授業・行事等を行っている
- (2) 小規模校には小規模校の良さがあるが、複式学級が生じる程の極小規模校になると、課題の方が大きい

⇒ 学校規模の適正化が必要

7 豊岡市における小中学校の適正規模・適正配置

1 適正規模の考え方

市の実情を考え、望ましい学校規模（理想とする姿）と、最低限確保したい学校規模（下限の目安）を設けます。

望ましい学校規模	最低限確保したい学校規模
小学校 12～18 学級 中学校 9～18 学級	小学校 6 学級以上（各学年 1 学級以上） 中学校 3 学級以上（各学年 1 学級以上） （小中学校とも、各学年 20 人程度以上）

2 適正配置の考え方

通学時間と旧市町ごとの歴史的・社会的背景に配慮した学校配置とします。

ア 通学時間 概ね 1 時間以内とする

※遠距離では、交通手段の確保が前提

イ 小学校の再編は、原則、同一中学校区内とする

ウ 中学校の再編は、原則、旧市町域内とする

〔 旧市町域内に小・中とも 1 校は存続させる
（地域の実情により例外あり） 〕

8 小中学校の適正規模・適正配置を実現するための学校再編

1 学校再編の手法の検討

学校規模の適正化を図るための学校再編の手法として、次の項目について検討しました。

- (1) 通学区域の見直し
地域コミュニティの分断に繋がることから適切ではないと考えます。
- (2) 小規模特認校※¹の導入
下記の理由により、導入するべきではないと考えます。
 - ・効果は一時的・限定的であり、複式学級の解消にはつながらない
 - ・逆に近隣の小規模校では児童・生徒の流出につながる
- (3) 学校の統合
上記の検討から、学校統合を基本として学校再編を進めるべきとしました。また、再編により、旧市町域内に小中学校とも 1 校となり、要件が満たされる場合には、「施設一体型小中一貫校※²」として再編・整備を検討する必要があると考えます。

※¹ 小規模特認校…小規模校について、市内の他の校区からの入学を認める制度

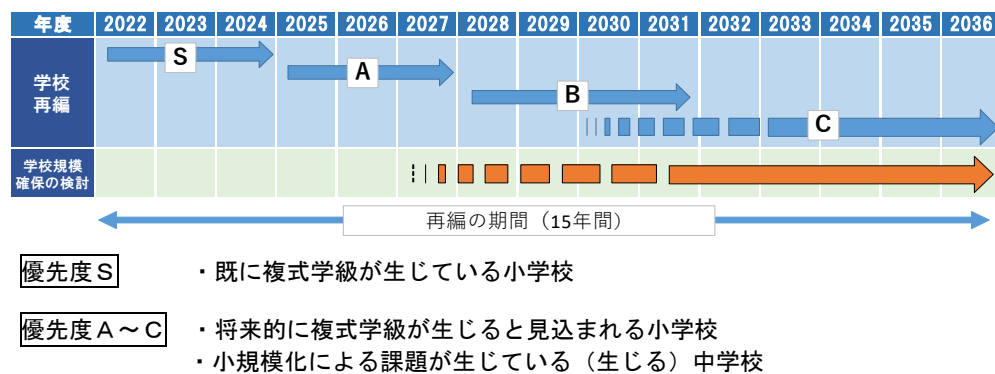
※² 施設一体型小中一貫校 … 小中学校を同一敷地内に置き、小中一貫教育を行う学校
同じ敷地内で、小中 9 年間の一貫したカリキュラムに基づいた計画的・継続的な教育活動を行うことができ、いわゆる中 1 ギャップの解消や、その地域独自の特色を持ったカリキュラムの編成が可能となる。また、小規模校のデメリットである人間関係の固定化や、集団活動の制限等の課題軽減が期待できる。

2 学校再編の進め方

- (1) 複式学級のある小学校を最優先とする
既に複式学級のある小学校は最優先、将来的に複式学級が生じると見込まれる小学校については、複式学級が生じる前に再編に向けての調整を開始する必要があります。
- (2) 小規模化による中学校の課題を解消する
集団活動や部活動等で制約が生じるなど、課題が大きくなる中学校を対象に再編を進める必要があります。
- (3) 学校規模の確保に向けた検討を開始する
最低限確保したい学校規模（下限の目安）を目指して、将来的な学校のあり方について、保護者、地域、学校及び教育委員会が一緒になって検討を始める必要があります。

3 再編の期間と優先順位

【図 2】



豊岡市立小中学校適正規模・適正配置審議会
（事務局）豊岡市教育委員会事務局 教育総務課
〒668-8666
兵庫県豊岡市中央町 2 番 4 号
tel 0796-23-1117 fax 0796-24-4669

9 学校再編の具体的な枠組（案）

【表 6】

地 域	検討対象校	再 編 案	優先度
豊 岡	中筋小学校	中筋小 + 新田小 （中筋小 + 新田小 + 神美小も視野に入れた検討）	B
港 城 崎	港小学校 （港東小+港西小）	港小 + 城崎小	C
竹 野	中竹野小学校 竹野南小学校	（竹野小 + 中竹野小） + 竹野南小 竹野中敷地内に校舎を新設、施設一体型小中一貫校とする	S
日 高	八代小学校 静修小学校	八代小 + 静修小 + 日高小	S
	三方小学校 清滝小学校	三方小 + 清滝小	C
出 石	寺坂小学校	寺坂小 + 福住小	S
	小野小学校	小野小 + 小坂小	A
但 東	高橋小学校	高橋小 + 合橋小	S
	合橋小学校 高橋小学校 資母小学校	高橋小 + 合橋小 + 資母小 但東中敷地内に校舎を新設、施設一体型小中一貫校とする	A
港 城 崎	港中学校 城崎中学校	港中 + 城崎中	B
日 高	日高西中学校	日高西中 + 日高東中	C

※港・城崎は旧市町域内での再編の例外とする。

※高橋小学校は、2段階での再編とする。

S：最優先 A：やや急ぐ B：5～10年後 C：11～15年後

10 学校再編を進めるにあたっての付帯意見

より良い学校再編となるよう、審議会から市教育委員会に対し、特に留意してもらいたいこととして、次のとおり意見をまとめます。

- (1) 児童生徒への配慮
新たな学校生活にスムーズに移行できるよう、児童・生徒の心身の負担軽減に向けた対応を講じる必要があると考えます。
- (2) 通学への配慮
通学時間に 1 時間近くを要することは、子どもたちにとって精神的・体力的に大きな負担となることから、負担軽減について、様々な方法を検討する必要があると考えます。
- (3) 放課後児童クラブ利用者への配慮
学校再編に伴って行われる放課後児童クラブの再編においては、受入態勢の確保や児童・保護者の負担軽減について検討する必要があると考えます。
- (4) 魅力ある学校づくり
地域の多様な伝統・慣習や文化、過去の学校再編の経緯等を考慮し、丁寧に対応していく必要があります。そのうえで、地域と学校が両輪となって、魅力（夢）のある学校の将来ビジョンを描く必要があると考えます。
- (5) 地域活動の拠点としての活用（学校の跡地利用）
学校については、防災・スポーツ・文化の拠点等、様々な機能を有しています。跡地利用については、地域コミュニティ等の活動が後退することのないよう、関係部局との検討が必要であると考えます。